

第3回三重県海岸保全基本計画検討委員会技術部会 議事要旨

日時:令和6年9月18日 15時～

場所:三重県勤労福祉会館

地下1階 特別会議室

【尾鷲における伊勢湾台風時の最大潮位偏差について】

主な意見は以下のとおり。

- 尾鷲における伊勢湾台風時の最大潮位偏差は信頼できる真値が不明な中、真値がわからないから計算結果が妥当と言うより、精度が検証された計算モデルを使用しつつ他の地域の結果も踏まえると問題は無いという表現の方が良い。
(事務局回答)ご指摘の通り文章を修正する。
- 尾鷲における伊勢湾台風時の最大潮位偏差を示す各出典を明記した方が良い。

【気候変動を踏まえた計画外力の検討結果 潮位偏差・設計高潮位の区分について】

主な意見は以下のとおり。

- 現行の設計高潮位を下回らないという方針は良いが、その内訳である H.W.Lと偏差は現象が異なるため、偏差についても既往最大を下回らないことを確認した方が良い。下回った場合については、下回らないように設定した方が良い。
(事務局回答)尾鷲においては、1972年台風20号に1.03mという最大潮位偏差の記録があり、そういった箇所がその他にもある場合は反映することを検討する。
- 過年度検討の成果を使用する場合、出典を明記すること。

【気候変動を踏まえた計画外力の検討結果 波浪について】

主な意見は以下のとおり。

- 波浪観測の測得頻度は最近の方が高いので、より最大値を得やすくなる。出来れば同じ観測間隔のデータを使った方が良い。
- 気候変動前後の波浪変動率が1.01倍というのが過年度の成果であり、それはd4PDFに基づいたSWANの計算結果と思うが、SWANの海面抵抗係数が高潮推算のときと異なる値であると、風速が大きい場合に波浪を過小評価する可能性がある。確認願いたい。
- 熊野灘側では、将来の50年確率波高が大きくなっているが、極値統計解析のプロット図を見ると、現在の極値統計解析の信頼区間に対して、将来のプロットが超過していそうな地点も一部あるが、多くの地点では超過していないようでもあるので、極値統計解析結果を詳細に

確認した方が良い。

- 気候変動後の波浪は気候変動前の波浪に 1.01 倍をかけて求めるのであれば、気候変動前の波浪を算出する期間あるいはそれに気候変動の影響が二重に含まれていないことを確認する必要がある。

【段階的な整備を計画する際の考え方について】

主な意見は以下のとおり。

- 現状の施設で防護するのであれば資料の通りであるが、一方で面的防護など他のやり方もあり、個別の海岸で考えるときは、養浜の併用等砂浜のことも考える必要がある。今後は、検討会の範疇を超えるかもしれないが、砂浜についても考えていって欲しい。
- 環境・利用は海岸保全においては重要な事項であるが、技術部会として、まず防護レベルとして必要な高さ等を整理して検討委員会に情報提供する。環境・利用に関しては検討委員会とのキャッチボールの中で進めていくことになろう。

以上